

# 咲く花に友の顔ある吉野山

佐藤茂弘

俳句をはじめ、散歩道でも木や花、時には風にも季節を感じ楽しむようになりました。

2005年春、花の吉野山で「ヨッ、佐藤君！」と声が掛かり小川誠二郎さんとお会いしました。お互い、夫婦連れで、4人の立ち話が始まりました。花見客の行き交う道は混雑しており、歩く人々には、さぞかし邪魔なことだったでしょう。小川さんは、大阪市で中野陽典さんとの俳句会に出席した帰りとのこと、私に俳句を嗜むよう勧められました。

翌2006年の年賀状では、「扉俳句会」への入会を誘われました。さらに、2014年の年賀状では、「三丘七期会のメール俳句会」をやっています。中野陽典君が世話人、入りませんか。」とご案内いただきました。

今思えば、その時すぐに入っておればと思ってみたりしています。小川さんには悪いことしたなど残念に思っております。これから精進して、少しでも小川さんのお心遣いにお応えしたいと思っています。

## 咲く花に友の顔ある吉野山 茂弘

小川誠二郎さんからは手賀沼（千葉県我孫子市）をモチーフとした版画作品の年賀状をいただき、新年の俳句が書き添えられていました。共に味わいを深めていただけたらと思います。



- 二〇〇六年 沼渡る黄金の帯初日の出
- 二〇〇八年 初日の出待ちそれぞれの羽繕い
- 二〇一〇年 初明かり上目遣ひの檻の虎
- 二〇一一年 金の帯水面を走る初日の出
- 二〇一二年 遠来の友と睦みて年迎ふ
- 二〇一四年 一点の朱に喚声の初日の出

